

骨粗鬆症と活性型ビタミンD

☐企画 中外製薬株式会社

☐製作 ㈱桜映画社

☐製作意図

この映画は、専門医家を対象として、高齢化社会の訪れと共に次第に増加しつつある老人の骨粗鬆症に対して、活性型ビタミンDがどのような治療効果を示すのか、基礎及び臨床の面から学術的に解説することを意図して製作されたものである。

☐ストーリー

歳をとると腰や背骨が曲つてくる。これは骨粗鬆症による背骨の圧迫骨折が原因である。一骨粗鬆症とは如何なる骨疾患なのだろうか。疫学調査によると、骨粗鬆症は加齢と共に増え、特に農村の女性に多発する。その原因は、カルシウムとビタミンDの不足に関連していることが明らかにされた。

カルシウムは大部分が骨に含まれ体を支えるとともに、そのごく一部は生命の維持に不可欠な役割を果している。そのため、血液中のカルシウム量は、たえず一定に保たれる必要がある。これを巧みに調節しているのがカルシウム調節ホルモンである。

老化すると、カルシウム摂取量が減り、カルシウム調節ホルモンなかでも活性型ビタミンDの産性低下によつて腸管からのカルシウム吸収が減る。従つて血液中のカルシウム量は下り、これを補うために骨の厚みや量は失われていく。これが骨粗鬆症で、特に閉経後の女性では、エストロゲンの分泌が急に低下するため、骨粗鬆症の進行が男性よりも早い。この症状が進むと骨はもろくなり骨折がおきやすくなるのである。

骨粗鬆症の治療としては近年活性型ビタミンDが注目され、その治療効果はまず動物実験で確められ、細胞レベルの実験でも、骨形成への関与が証明され、又、臨床の間でも有効性が認められている。

高齢化社会を迎えた今、活性型ビタミンDは、老人の健康管理の上で多くの可能性を秘めた薬物として、将来への夢はますます広がっている。

☐スタッフ

製作 村山 英世 監修 伊丹 康人

脚本) 浅野 勲 解説 小林 恭治
演出

撮影 山屋 恵司+野崎 嘉彦

録音 東京テレビセンター

☐ 16ミリ・カラー・27分 ¥200,000